
勇者じゃないのに異世界へ

泥田坊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

勇者じゃないのに異世界へ

【Nコード】

N3702V

【作者名】

泥田坊

【あらすじ】

ある日、不運にも勇者召喚に巻き込まれてしまった少年。神様も慌てて、取りあえず、異世界ではそこまで強くないくらいの力を与える。「勇者じゃないから使命なんてないし、適当に生きてくれ。」見知らぬ世界で彼はどう生きるのか。

物語の始まり

朝。

それは一日の始まりである。太陽が生きる者にとって希望となる光を当てる時間だ。

ある者はその光に心地良く目覚め、一日の始まりを喜び、ある者はその光にたたき起こされ、一日の始まりを呪い、またある者は、その光にどこか心地良さを感じ、ベッドにとどまり、二度寝を堪能する

俺が属しているのは三番目。そして昨日、夜更かしをするという致命的なミスを犯してしまった。

つまり何言いたいかっていうと、今、俺はベッドの中で寝ているのだ。ダラダラと過ごすのでは無くて、ダラダラと冷や汗を流し。

・・・現実（時計）に目を背けて。

さて、これで7:30ぐらいだと、学校に間に合うのだが、それはかなり希望的観測だろう。こんなことを考えている時点でフラグがたっている。

意を決して、グギギギイと擬音を鳴らし、そりゃあもう、ゆっくりと、自分の嫌な予感が外れている事を祈りながら、ふり返って時計を見ると・・・

am 8:21

これはかなりまずい！

急いでベッドから跳ね起きて、やるべき事を確認だ！

着替え・・・今すぐに征服、違う制服に！
食事・・・走りながら食パン！
顔洗い・・・パス！
持ち物・・・リュックひとつでOK！

「行ってきます！」

俺はパンを片手に、玄関を飛び出した

そして

ブーン！

とっつ

何かの音が聞こえ

俺の視界は白くなっていった。

- - - - -

ここまで覚えている。そしていま、真っ白な空間。
・・・ここはどこなんだ？

神様の会話（前書き）

なんと……………

一話しか投稿してないのにお気に入り登録二件とは……………これからも読んで貰いたいです。

神様の会話

時は遡り、彼が目覚める少し前……

「さて、ここに転移させた彼のことについて、キリキリ吐いてもらおうか。」

「ちよっ、待って下さい！別に私に非はありません！」

二人の神が彼のいる場所とは違う空間で話し合いをしていた。

「なるほど、責任転嫁ときたか。」

「違います！本当に私のせいじゃあないんです！そもそも何で私が何かやった前提なんですか！」

「じゃあ何で面倒くさがりのお前がわざわざここに運んできたんだ？」

「面倒くさがりいうな！効率重視なだけです！それと、理由はここを見てください。」

女神の方が書類を渡すと、上司っぽい方の神の顔が青ざめる。

「人間の作った次元跳躍型メシアホイホイの術式なのですが見れば

わかる通り、ここのご都合補正の仕方が少し間違っ
てて1/198
2744137の確「見えん！」立でつてギヤ
ー！燃やすなー！大
事な書類が！報告書がー！」

「黙っとけ！……いいか……ここ
のミスの部分を担当したのはな
……創造神様なんだぜ……」

「なん……ですと……OK把握
しました。報告書や間違いなん
てなくて、私のミスでした。」

「分かれば良いんだ。後でちよ
っと援助してやる。おっと目が覚
め
たみたいだぜ。」

「あ、本当ですね。」

神様の会話（後書き）

言い忘れましたが、感想は随時募集しています。

否定的な意見は改善策を添えて下さい。

8 / 3 ちよつとした解説をプラス

ご都合補正：人間が面白い物を作る時に、ちよつと発明者の気づいてないミスを治す事

次元跳躍型メシアホイホイ：神様がノリでつけた名前。もちろん人間達は勇者召喚術式とか呼んでる。

神様とご対面（前書き）

じわじわと増えるお気に入り登録が嬉しいです。

神様とご対面

神様とご対面

依然、場所は神様の居る場所である。

「なんかパクパクしてるぞ。驚いてるのか？」

「違いますね。音声通信が入っていないだけです。」

「そうか、早く入れろ。」

「解ってますって。急かさないで下さい。あ、できま」責任者でて
こーい！」

……シーン……

「何か怒ってる？」

「どっしします？出てこいって言ってますが。」

「まあ逝ってこい、責任者！」

「えっ、私？」

「お前以外の誰が責任者なんだ。」

「だって私のせいじゃ無いですし…」

「じゃあ、何か？創造神様呼んでくるか？」

「分かりましたよ！」

……主人公 side

………何か声が聞こえるけど、姿が見えない……。会話からして上司と部下？

一体何「こんにちは。」おわっ！なんか何時の間にか女の人がいる！

「私が責任者なのですが…」

やばい、あのふざけて言ったクレームの定番を本気にしていらっしやる！

「すみませんあれは冗談だったんです！許して下さい！」

「あっ、そうなんですか。別にいいですよ。」

良かった。あまり怒ってなかった。

「それと、一つ聞きたいんですけど、ここは何処なんですか？」

「時空の狭間です。」

聞こえなかった。俺には何も聞こえなかった。

「すみません、耳の調子が悪いみたいです。もう一度言ってくれませんか？」

「時空の狭間です。」

「桶狭間？」

「時空の狭間です。そろそろ認めて下さい。」

確かにまっ白でそれっぽいけど…

「じゃあ何か？テンプレのごとく、俺はもう死んでいる！とかそんな感じなのか？」

「全然違います。」

ですよ。そんな厨二な展開がある訳ないし。

「とりあえず、あなたの状況について説明いたします。あなたには

異世界に行つていただきます。」

厨二な展開だった。

「いやまて、そもそも誰なんですかあなた。」

「神様です。」

神様ですかそうですか。

「そうですね神様です。」

これにはつつこまずにいよう。

「信じてませんね。」

何故ばれたし。

「あなたがさつきからしゃべってないことに気づきなさい。」

意思を読めるとはこれはまさかモノホンか？イヤマテ、読心術がうまいとか…

「モノホンですよ…話を続けます。よく聞いといて下さい。」

はい。

「勇者召喚に巻き込まれたので異世界に行つて貰います。巻き込まれただけですので、使命とかありません。勇者が魔王を倒せばもとの世界に戻ります。頑張つて生きて下さい。以上！」

.....
ええー
.....。

神様とご対面（後書き）

異世界にはまだいけないです。

次話で神様シーン終わらせる予定です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3702v/>

勇者じゃないのに異世界へ

2011年10月9日08時07分発行